

バイオセンサー

Weekly Intelligence Report

2026-05-02 | 13件 | 3カ国

troy-technical.jp

今週のキーワード

CGM進化と診断

非侵襲化・OTC化進むバイオセンサー

13

件
記事数

3

カ国
対象国

716.8

億ドル
2035年市場

7.3

%
CAGR

今週の全13記事 — 5軸評価で読むべき記事を選ぶ

各列の見方 — 技術新規性: ブレークスルー度合い 実用化距離: 製品として使える近さ 市場インパクト: 業界全体への影響規模
データ信頼性: 定量データ・査読の有無 日本関連度: 日本の企業・サプライチェーンとの直接的関連性

#	記事タイトル	種別	技術 新規性	実用化 距離	市場 インパクト	データ 信頼性	日本 関連度	一行サマリ
#01	CRISPR-Chip新技術	学術論文	●●●●● ●	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	CRISPRと半導体チップを融合し、未増幅DNAを直接電子検出する新技術が発表。診断時間短縮とコスト削減に貢献。
#02	バイオセンサー最前線	解説記事	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	疾患診断と個別化医療を推進するバイオセンサー技術の進化を解説。高感度・非侵襲検出、低コスト化・小型化がトレンド。
#03	バイオセンサー市場	市場概観	●●●●● ○	●●●●● ●	●●●●● ●	●●●●● ○	●●●●● ●	2035年までのバイオセンサー市場はウェアラブルとPOCTに牽引され、716.8億ドルに達すると予測。
#04	Senseonics CGM連携	製品紹介	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	Senseonicsが1年型CGM「Eversense 365」と自動インスリン投与システム「twist™ AID」の統合運用を開始。
#05	CGMトレンド分析	技術比較	●●●●● ○	●●●●● ●	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	2026年の連続血糖モニタリング（CGM）トレンドと主要デバイスを比較分析。長寿命化、デジタル連携、非侵襲化が進む。
#06	汗利用血糖センサー	応用研究	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	ワシントン州立大学が汗からグルコースを継続測定する非侵襲ウェアラブル血糖センサーを開発。糖尿病管理の負担軽減へ。
#07	Dexcom G7/Stelo発表	新製品	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ●	●●●●● ○	●●●●● ●	Dexcomが新世代CGM「G7」とOTC対応グルコースバイオセンサー「Stelo」を発表。市場アクセスを大幅に拡大。
#08	膵臓がん早期診断	応用研究	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	膵臓がんの早期発見を可能にする電気化学バイオセンサーが開発。特定のバイオマーカーを高感度・選択的に検出。
#09	汗pHウェアラブル	技術革新	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	汗のpH値を連続モニタリングするウェアラブルセンサーの技術が進展。アスリート管理や健康管理に应用期待。
#10	血糖モニタ市場	市場概観	●●●●● ○	●●●●● ●	●●●●● ●	●●●●● ○	●●●●● ●	2026-2033年の血糖モニタリング装置市場は糖尿病有病率増加と技術革新により拡大。CGMが重要。
#11	バイオセンサー市場	市場概観	●●●●● ○	●●●●● ●	●●●●● ●	●●●●● ○	●●●●● ●	バイオセンサーシステム市場は2026-2033年にCAGR 7.3%で成長。医療、食品安全、環境モニタリングが牽引。
#12	ラボオンチップ市場	市場概観	●●●●● ○	●●●●● ●	●●●●● ●	●●●●● ○	●●●●● ●	ラボオンチップデバイス市場は2026-2033年に急速な成長を予測。迅速診断や個別化医療が成長ドライバー。
#13	においセンシング	市場概観	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ○	●●●●● ●	においセンシング世界市場は環境モニタリングや医療診断で応用進展。高感度センサーとAI連携が市場拡大を後押し。

●●●●○ 高 ●●●○ 中高 ●●○○○ 中 ●○○○○ 低 | 背景黄色=注目記事

今週、判断に影響しうる3つの問い

① CGMのOTC化は、日本の医療機器市場をどう変えるか？

DexcomのOTC対応CGM「Stelo」の登場は、糖尿病患者だけでなく一般の健康意識層への市場拡大を示唆します。日本の医療機器メーカーは、この市場変化に対し、どのような製品戦略と流通チャネル戦略を構築すべきでしょうか？

② 未増幅DNA直接検出技術は、自社の診断薬開発ロードマップにどう影響するか？

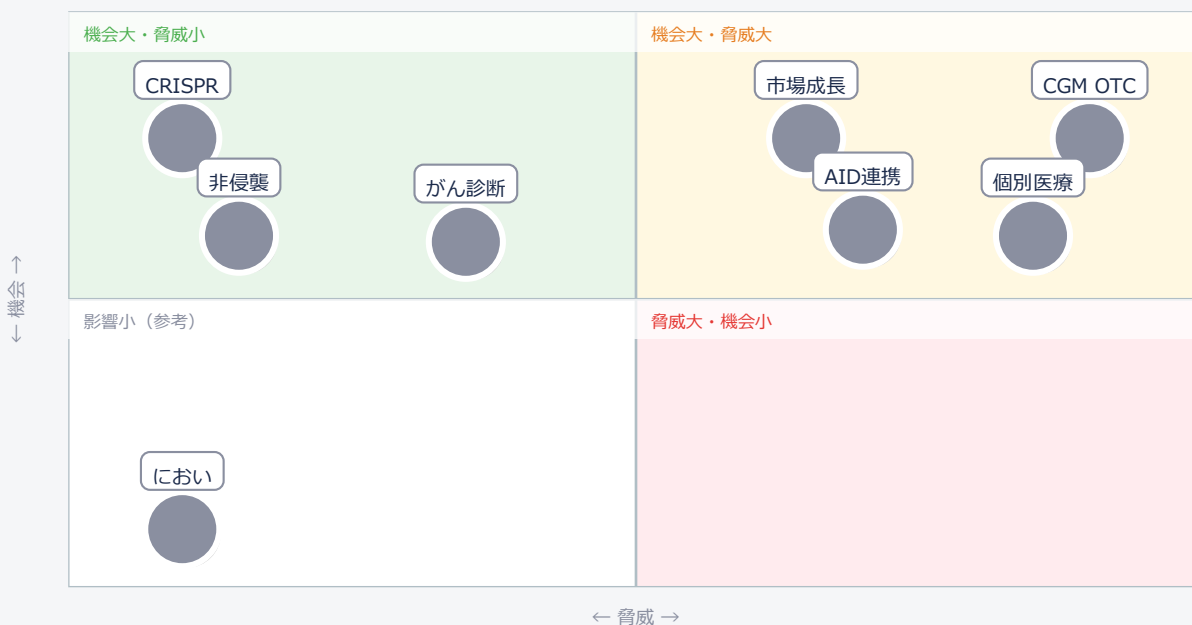
CRISPR-Chipによる未増幅DNAのデジタル検出は、従来のPCR増幅プロセスを不要にし、診断の迅速化と低コスト化を実現する可能性があります。この技術が実用化された場合、自社の診断薬・検査機器開発の優先順位や技術投資の方向性を再検討する必要があるでしょうか？

③ 非侵襲モニタリング技術は、既存のセンサー材料やデバイス設計の前提を変えるか？

汗や涙を利用した非侵襲血糖センサーやpHセンサーの開発は、生体適合性、フレキシブル性、高感度性といった材料特性への要求を大きく変えます。既存のセンサー材料メーカーやデバイス設計者は、このトレンドに対し、どのような技術革新と材料開発で対応すべきでしょうか？

日本企業にとっての「機会 vs 脅威」

日本企業にとっての「機会 vs 脅威」マトリクス



項目	象限	↑ 機会	↓ 脅威
● CGM OTC	注意	CGM市場拡大、OTC参入	競合激化、日本市場影響
● CRISPR	機会大	新規診断技術、半導体連携	技術習得、海外先行
● 個別医療	注意	個別医療市場拡大、新材料	開発競争、規制対応
● 市場成長	注意	成長市場参入、戦略策定	市場変化への対応遅れ
● AID連携	注意	糖尿病管理高度化、部品需要	競合優位性、システム統合
● 非侵襲	機会大	新規材料・センサー開発	精度・安定性課題、海外先行
● がん診断	機会大	診断技術革新、医療貢献	高度な技術要求、臨床承認

● におい	参考	新規応用分野、AI連携	技術難易度、市場規模限定
-------	----	-------------	--------------

深掘り ① — DexcomがCGM市場を再定義：OTC化とG7の進化

#07 | 2026/04/26 | Dexcom | 技術新規性●●●○○ 実用化距離●●●●○ 市場インパクト●●●●● データ信頼性●●●●○ 日本関連度●●●●●

Dexcomは、最新の「G7 CGMシステム」と、インスリンを使用しない2型糖尿病患者向けのOTC対応「Steloグルコースバイオセンサー」を発表しました。G7は小型化と高速ウォームアップで利便性を向上させ、Steloは処方箋不要で広範な患者層に高精度な血糖モニタリングを提供し、糖尿病管理へのアクセス性を飛躍的に高めます。

この動きは、CGM市場が従来のインスリン治療患者向けから、予防医療や一般の健康管理へと拡大する転換点を示しています。OTC化により、より多くの人々がリアルタイムの血糖値データを活用し、自身の健康状態を積極的に管理できるようになるでしょう。これは、糖尿病ケアのパラダイムシフトを加速させる重要な一歩です。

▶ シニアテクニカルアナリスト

DexcomのG7は既存CGMの着実な進化ですが、SteloのOTC対応は市場戦略上の大きなブレークスルーです。これにより、日本の医療機器メーカーは、従来の医療チャネルだけでなく、一般消費者市場での競争に直面します。特に、非侵襲型CGMがまだ実用化されていない現状では、Steloのような低侵襲型OTCデバイスが先行者利益を得る可能性が高いです。日本企業は、自社のCGM開発ロードマップを見直し、OTC市場への参入戦略、あるいは既存製品の差別化戦略を早急に検討する必要があります。材料メーカーは、小型化、生体適合性、低コスト化に貢献するセンサー材料やパッケージング技術の開発を加速すべきです。

深掘り ② — CRISPR-Chip：未増幅DNA検出のブレークスルー

#01 | 2026/04/25 | 不明 (科学論文またはプレスリリース) | 技術新規性●●●●● 実用化距離●●○○○ 市場インパクト●●●●○ データ信頼性●●●●○ 日本関連度●●●○○

CRISPR-Chipは、遺伝子編集技術CRISPRと半導体チップを融合し、未増幅のDNAを直接電子的に検出する新技術です。これにより、従来のDNA増幅プロセスが不要となり、病原体DNAや遺伝子変異の迅速な特定が可能になります。診断時間の短縮とコスト削減に大きく貢献すると期待されています。

この技術は、電気化学的手法に基づき、Cas9タンパク質がターゲットDNAに結合した際の電気的特性変化を検出します。超早期診断、リキッドバイオプシー、食品安全検査など、幅広い分野での応用が期待される学術的ブレークスルーです。

▶ シニアテクニカルアナリスト

CRISPR-Chipは、分子診断のゲームチェンジャーとなり得る画期的な技術です。未増幅DNAの直接検出は、サンプル前処理の簡素化と診断時間の劇的な短縮を意味します。ただし、現状は基礎研究段階であり、実用化には高感度化、特異性のさらなる向上、生体サンプル中の複雑な干渉物質への対応、そして量産化技術の確立が課題となります。日本企業にとっては、半導体技術とバイオ技術の融合という点で、半導体メーカーや精密機器メーカーがこの技術のプラットフォーム開発に参入する大きな機会があります。一方で、この分野での海外先行を許せば、将来的な診断市場での競争力を失う脅威にもなり得ます。R&D部門は、この技術の動向を注視し、関連する半導体プロセス技術やバイオ認識分子技術への投資を検討すべきです。

深掘り ③ — 個別化医療を牽引するバイオセンサー技術の最前線

#02 | 2026/04/26 | IEEE Transactions on NanoBioscience | 技術新規性●●●○○ 実用化距離●●●○○
市場インパクト●●●●○ データ信頼性●●●●○ 日本関連度●●●●○

ヘルスケア分野におけるバイオセンサー技術は、疾患診断と個別化医療の推進に不可欠な役割を担っています。電気化学、光学、圧電方式のセンサーが高感度かつ非侵襲的な生体分子検出を可能にし、疾患の早期発見から治療効果のモニタリングまで、幅広い応用が期待されています。

特に、マルチモーダルセンサーやAIを活用したデータ解析システムとの連携により、診断能力と応用範囲がさらに拡大すると予測されます。低コスト化と小型化が進むことで、医療現場だけでなく、一般消費者のセルフケアツールとしての普及も視野に入っています。

▶ シニアテクニカルアナリスト

バイオセンサー技術の進化は、個別化医療の実現に向けた基盤となります。特に、複数のバイオマーカーを同時に、かつリアルタイムで検出できるマルチモーダルセンサーは、診断精度と治療効果モニタリングの質を大きく向上させるでしょう。しかし、生体適合性、長期安定性、製造コスト、そして規制当局による承認プロセスは依然として大きな課題です。日本の材料メーカーは、これらの課題を解決するための高機能な生体適合性材料、フレキシブル基板、高感度認識分子などの開発に注力すべきです。また、医療機器メーカーは、AIを活用したデータ解析プラットフォームとの連携を強化し、包括的なヘルスケアソリューションを提供することで、グローバル市場での競争力を高める機会があります。

その他の注目記事

バイオセンサー市場 グローバル調査レポート 2026-2035 (Vertex AI Search)

技術新規性●○○○○ 実用化距離●●●●● 市場インパクト●●●●●

2035年までに716.8億ドルに達するバイオセンサー市場の成長予測。ウェアラブルとPOCTが主要牽引役。

Senseonics、1年型CGM「Eversense 365」と自動インスリン投与システム「twiist™ AID」の連携を発表 (Senseonics Holdings, Inc.)

技術新規性●●●○○ 実用化距離●●●●○ 市場インパクト●●●●○

1年型CGMとAIDシステムの統合は、糖尿病患者の負担を大幅に軽減し、血糖コントロールを向上させる。

ワシントン州立大学、汗を利用した次世代非侵襲ウェアラブル血糖センサーを開発 (Washington State University)

技術新規性●●●●○ 実用化距離●●○○○ 市場インパクト●●●●○

汗からのグルコース測定は非侵襲血糖モニタリングの大きな一歩。精度と安定性の課題克服が実用化の鍵。

膵臓がんの早期診断を可能にする電気化学バイオセンサー技術の開発 (Vertex AI Search)

技術新規性●●●●○ 実用化距離●●○○○ 市場インパクト●●●●○

難病である膵臓がんの早期診断は予後改善に直結。高感度なバイオマーカー検出技術の進展に期待。

今週のアクション提案

記事評価マトリクスと機会/脅威分析を踏まえたアクション提案です。

■ 即時（今週中）

- 【R&D;】 【経営企画】 Dexcom G7/Steloの製品詳細とOTC市場戦略を調査し、自社のCGM/診断デバイスのポジショニングを再評価すること。
- 【調達】 主要バイオセンサーメーカーのサプライチェーン動向を調査し、材料・部品の安定供給リスクを評価すること。

■ 短期（1ヶ月）

- 【R&D;】 【事業開発】 CRISPR-Chipや非侵襲センサーの最新研究動向を深掘りし、自社技術との連携可能性を検討。大学・研究機関との共同研究を模索すること。
- 【半導体PKG】 【材料開発】 バイオセンサーの小型化・高感度化に貢献するフレキシブル基板、生体適合性材料、高感度電極材料の技術ロードマップを策定すること。

■ 中長期（四半期～）

- 【経営戦略】 【R&D;】 個別化医療・予防医療市場の成長を見据え、高機能バイオセンサー向け材料およびデバイスの開発ロードマップを策定すること。
- 【EV設計】 【電池材料】 においセンシング技術の自動車内装やバッテリー異常検知への応用可能性を評価し、新規事業機会を検討すること。
- 【経営企画】 バイオセンサー市場のグローバル動向を継続的にモニタリングし、M&A;や戦略的提携の機会を探索すること。

バイオセンサー 採用記事全文集

出力日: 2026-05-02

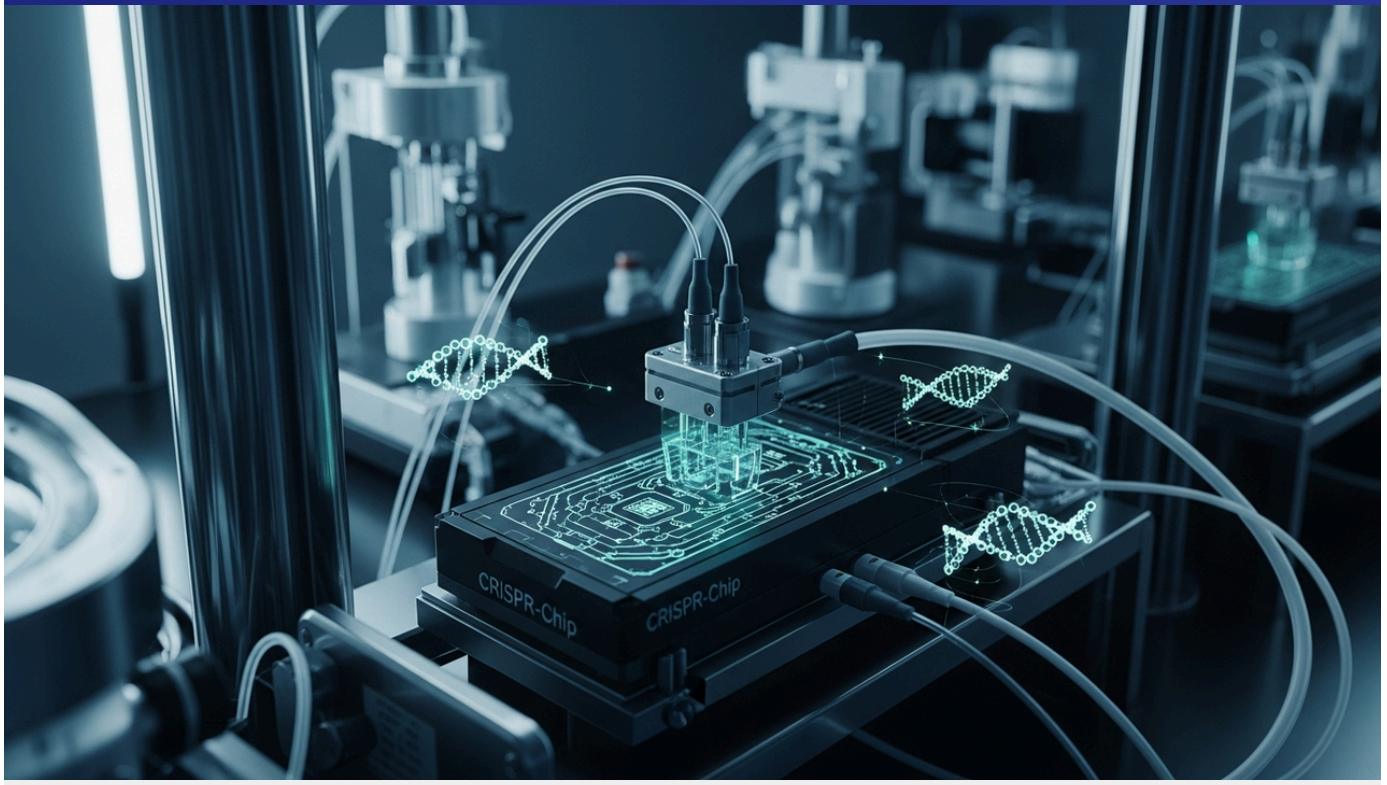
採用記事数: 13 件

収録記事一覧

1. 01. CRISPR-Chipが未増幅DNAのデジタル検出を実現する新技術
2. 02. 疾患診断と個別化医療を推進するバイオセンサー技術の最前線
3. 03. バイオセンサー市場 グローバル調査レポート 2026-2035
4. 04. Senseonics、1年型CGM「Eversense 365」と自動インスリン投与システム「twiist™ AID」の連携を発表
5. 05. 連続血糖モニタリング（CGM）2026年トレンドと市場主要デバイスの比較分析
6. 06. ワシントン州立大学、汗を利用した次世代非侵襲ウェアラブル血糖センサーを開発
7. 07. Dexcom、新世代CGMシステム「G7」とOTC対応グルコースバイオセンサー「Stelo」を発表
8. 08. 膵臓がんの早期診断を可能にする電気化学バイオセンサー技術の開発
9. 09. 汗のpHを連続モニタリングするウェアラブルセンサーの技術革新
10. 10. 血糖モニタリング装置市場 グローバル調査レポート 2026-2033
11. 11. バイオセンサーシステム市場 グローバル調査レポート 2026-2033
12. 12. ラボオンチップデバイス市場 グローバル戦略的予測 2026-2033
13. 13. においのデジタル化：においセンシング世界市場の展望 2026

CRISPR-Chipが未増幅DNAのデジタル検出を実現する新技術

公開日 2026年04月25日 不明 (科学論文またはプレスリリース) アメリカ



概要

遺伝子編集技術CRISPRと半導体チップを融合した「CRISPR-Chip」が、未増幅のDNAを直接電子的に検出する新手法として発表されました。この技術は、高い特異性と感度で病原体DNAや遺伝子変異を迅速に特定する可能性を秘めています。従来必要だったDNA増幅プロセスを不要にすることで、診断時間の短縮とコスト削減に貢献すると期待されています。ラボオンチップ技術や電気化学バイオセンサーの進化を示す重要な一歩です。

革新的なDNA検出技術：CRISPR-Chipの概要

CRISPR-Chipは、遺伝子編集技術として知られるCRISPR-Casシステムと、微細加工された半導体チップを組み合わせた画期的なバイオセンサーです。この技術の最大の特徴は、ターゲットとなるDNAを増幅することなく、直接電子信号として検出できる点にあります。従来のDNA検出法では、PCR（ポリメラーゼ連鎖反応）などの増幅ステップが不可欠でしたが、CRISPR-Chipはこれを省略することで、検出プロセスを大幅に簡素化し、迅速化します。Cas9タンパク質がガイドRNAの指示に従って特定のDNA配列を認識し結合すると、その結合がチップ上の電極の電気的特性を変化させ、これを検出することでDNAの存在をデジタル信号として読み取ります。

検出メカニズムと技術的優位性

CRISPR-Chipの検出メカニズムは、主に電気化学的手法に基づいています。Cas9-ガイドRNA複合体がターゲットDNAに結合すると、この結合イベントがチップ表面の導電率やインピーダンスなどの電気化学的パラメーターに微細な変化をもたらします。これらの変化を高性能な電子回路で高感度に捉えることで、DNAの有無や量を定量的に評価することが可能です。このシステムは、非常に低い濃度のDNAサンプルでも高い特異性と感度で検出できるため、疾患の超早期診断や病原体の迅速な特定において大きなアドバンテージを発揮します。また、チップは小型化が可能であり、将来的なポータブル診断デバイスへの応用も期待されます。

医療および研究分野への影響と展望

CRISPR-Chip技術は、医療診断分野に革命をもたらす可能性を秘めています。例えば、感染症のポイントオブケア検査において、検体採取から数分で病原体DNAを検出できるようになれば、診断と治療の迅速化に直結します。また、がんの早期発見におけるリキッドバイオプシー（血液検体を用いたがん診断）への応用や、遺伝性疾患のスクリーニング、個別化医療における薬剤感受性診断など、幅広い臨床応用が考えられます。さらに、食品安全検査や環境モニタリングといった非医療分野でも、特定のDNAマーカーを迅速に検出するツールとして活用されることで、社会全体の安全保障に貢献すると期待されています。この技術のさらなる発展は、分子診断のパラダイムシフトを促進しましょう。

収集日: 2026年05月02日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

疾患診断と個別化医療を推進するバイオセンサー技術の最前線

公開日 2026年04月26日 IEEE Transactions on NanoBioscience (via バイオセンサー 新技術・技術紹介) 日本



概要

この記事は、ヘルスケア分野におけるバイオセンサー技術の進化と、それが疾患診断や個別化医療にもたらす影響を詳細に解説しています。高感度かつ非侵襲的な生体分子検出を可能にする電気化学、光学、圧電方式のバイオセンサーが注目されています。これらの技術は、疾患の早期発見から治療効果のモニタリング、さらには個々の患者に最適化された医療アプローチの実現に不可欠です。低コスト化と小型化が進むことで、より広範な医療現場での普及が期待されています。

バイオセンサー技術の現状とヘルスケアへの応用

バイオセンサー技術は、医療分野における診断精度と効率を飛躍的に向上させる中核的な役割を担っています。特に、高感度かつ選択的に微量な生体分子を検出できる能力は、疾患の早期発見や進行状況のモニタリングにおいて極めて重要です。現在、主に利用されているバイオセンサーは、その検出原理によって電気化学式、光学式、圧電式などに分類されます。電気化学式バイオセンサーは、ターゲット物質との反応によって生じる電流や電圧の変化を測定するもので、血糖値測定器に代表されるように小型化とコスト効率に優れます。一方、光学式バイオセンサーは、蛍光、吸光度、表面プラズモン共鳴などの光学的変化を利用し、高い感度と非侵襲性を特徴とします。これらの技術は、診断薬開発、医薬品スクリーニング、環境モニタリングなど多岐にわたる応用が可能です。

個別化医療におけるバイオセンサーの役割

個別化医療の進展は、バイオセンサー技術の進化と密接に関連しています。各患者の遺伝的特性、生活習慣、疾患の進行状況に応じた最適な治療法を提供するためには、リアルタイムで詳細な生体情報を継続的にモニタリングする必要があります。バイオセンサーは、血液、尿、汗などの体液から、特定のタンパク質、DNA、代謝産物といったバイオマーカーを効率的に検出します。これにより、薬剤の有効性や副作用を個別に評価し、治療計画を柔軟に調整することが可能になります。例えば、ウェアラブル型バイオセンサーは、患者の日常生活における生理学的データを継続的に収集し、医療従事者に詳細な情報を提供することで、よりパーソナルな健康管理と疾患予防を実現します。

バイオセンサー市場 グローバル調査レポート 2026-2035

公開日 2026年04月26日 Vertex AI Search 日本



概要

Vertex AI Searchが2026年4月26日に発行したこの市場調査レポートは、2035年までのバイオセンサー市場を対象としています。レポートによると、同市場はウェアラブル技術とポイントオブケア検査（POCT）の需要に強く牽引されると分析されています。2035年までに市場規模は716.8億ドルに達すると予測されており、技術革新と個別化医療への関心の高まりが成長を後押しする主要因です。

詳細

本記事はVertex AI Searchが発行した市場調査レポートの概要紹介です。

レポート概要

本レポートは、バイオセンサー市場のグローバルな動向を包括的に分析しています。調査対象期間は発表日から2035年までとされており、特にヘルスケア産業におけるバイオセンサーの進化と市場成長の主要ドライバーに焦点を当てています。ウェアラブルデバイスの普及、ポイントオブケア検査（POCT）の需要拡大、そして個別化医療への移行が市場を大きく牽引していると分析されています。

主要な調査結果

市場規模予測によると、バイオセンサー市場は2035年までに716.8億ドルに達する見込みです。この成長は、バイオセンサーの感度と選択性を向上させる技術的進歩によって加速されると予測されています。また、予防的ヘルスケアへの意識の高まりも市場拡大の重要な要因として挙げられます。医療診断、環境モニタリング、食品安全など、多岐にわたる分野でのバイオセンサーの応用が、市場の持続的な成長を支えるでしょう。

発行会社について

Vertex AI Searchは、AIを活用した情報収集と分析を専門とするリサーチ機関です。最先端の技術動向から市場予測まで、幅広い分野で詳細なレポートを提供しており、特にバイオテクノロジー、ヘルスケア、IT分野において深い専門知識を有しています。彼らのレポートは、企業の戦略策定や投資判断に不可欠な情報源として評価されています。

元記事: [https://troy-](https://troy-technical.jp/%E3%83%90%E3%82%A4%E3%82%AA%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%82%B5%E3%83%BC%E5%8D%A1)

[technical.jp/%E3%83%90%E3%82%A4%E3%82%AA%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%82%B5%E3%83%BC%E5%8D%A1](https://troy-technical.jp/%E3%83%90%E3%82%A4%E3%82%AA%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%82%B5%E3%83%BC%E5%8D%A1)

収集日: 2026年05月02日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

Senseonics、1年型CGM「Eversense 365」と自動インスリン投与システム「twiist™ AID」の連携を発表

公開日 2026年04月26日 Senseonics Holdings, Inc. (via バイオセンサー ウィークリーレポート) アメリカ



概要

Senseonics Holdings, Inc.は、1年間持続する連続血糖モニタリング（CGM）システム「Eversense 365」と、自動インスリン投与（AID）システム「twiist™」の統合運用を開始しました。これにより、糖尿病患者は長期にわたる血糖監視と自動化されたインスリン管理をシームレスに享受できます。この連携は、患者の負担軽減と血糖コントロールの向上に大きく貢献することが期待されています。遠隔モニタリング機能も強化され、より包括的な糖尿病ケアが可能になります。

Senseonicsの革新的な糖尿病管理ソリューション

Senseonics Holdings, Inc.は、糖尿病患者の生活の質を向上させることを目指し、その主力製品である1年間持続型の連続血糖モニタリング（CGM）システム「Eversense 365」と、新たに統合された「twiist™」自動インスリン投与（AID）システムの運用開始を発表しました。この統合は、CGM市場における重要な進歩であり、患者にこれまでにない利便性と効果的な血糖管理を提供します。Eversense 365は、皮下に埋め込むタイプのセンサーで、最大365日間使用可能という他に類を見ない長寿命を誇ります。これにより、従来のCGMシステムで必要とされていた頻繁なセンサー交換の負担が大幅に軽減されます。

Eversense 365 CGMとtwiist™ AIDシステムの統合メリット

Eversense 365 CGMとtwiist™ AIDシステムの連携は、リアルタイムの血糖値データに基づいてインスリン投与を自動化する「クローズドループ」システムを可能にします。Eversense 365は、高精度な血糖データを持続的に測定し、この情報をtwiist™ AIDシステムに送信します。twiist™ AIDシステムは、受信したデータに基づいて最適なインスリン量を計算し、自動で投与することで、血糖値の急激な変動を抑え、安定した血糖コントロールを実現します。このシームレスな統合により、患者は日中の血糖値管理の負担から解放され、夜間の低血糖リスクも低減されるため、安心して日常生活を送ることが可能になります。さらに、遠隔モニタリング機能の強化により、医療従事者が患者のデータを遠隔で確認し、必要に応じてサポートを提供できるため、より包括的な糖尿病ケアが実現します。

糖尿病管理の未来と市場への影響

このSenseonicsの技術革新は、糖尿病管理の未来を形作る重要な一步となります。長期埋め込み型CGMとAIDシステムの統合は、患者の自己管理能力を向上させるとともに、糖尿病による合併症のリスクを低減する可能性を秘めています。市場においては、競合他社も同様の統合ソリューションの開発を進めていますが、Senseonicsの1年というセンサー寿命は、他の追随を許さない大きな優位性となるでしょう。このような進歩は、患者の治療満足度を高めるだけでなく、医療システム全体の効率化にも貢献し、糖尿病治療のパラダイムシフトを加速させることが期待されます。今後、さらなるデータ分析機能やAIとの連携が進むことで、より個別化された精密な糖尿病管理ソリューションが登場するでしょう。

元記事: <https://troy-technical.jp/%E3%83%90%E3%82%A4%E3%82%AA%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%82%B5%E3%83%BC-%E3%82%A6%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%AC%E3%83%9D%E3%2026%E5%B9%B4%E6%9C%8825%E6%97%A5%E5%8F%B7/>

収集日: 2026年05月02日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

連続血糖モニタリング（CGM）2026年トレンドと市場主要デバイスの比較分析

公開日 2026年04月26日 Vertex AI Search (via バイオセンサー ウィークリーレポート) 日本



概要

2026年における連続血糖モニタリング（CGM）技術の最新トレンドと、市場を牽引する主要デバイスの比較分析が公開されました。記事は、センサーの長寿命化、デジタルヘルスプラットフォームとの連携強化、そして非侵襲・低侵襲技術の開発が進むことを指摘しています。Dexcom、Abbott Libre、Medtronicなどの製品が精度、使いやすさ、費用対効果で比較され、糖尿病管理の質向上への貢献が期待されています。AIと機械学習の活用による予測機能も注目されています。

連続血糖モニタリング（CGM）市場の進化

2026年現在、連続血糖モニタリング（CGM）技術は、糖尿病患者の血糖管理において不可欠なツールとしてその重要性を増しています。従来の指先穿刺による血糖測定と比較して、CGMは24時間体制で血糖値をリアルタイムで追跡し、その傾向を把握できるため、患者はより適切なタイミングで食事や運動、インスリン投与の判断を下すことが可能になります。市場では、センサー寿命の延長、デバイスの小型化、装着の簡便化といったユーザーエクスペリエンスの向上が主要なトレンドとなっています。また、デジタルヘルスプラットフォームやスマートフォンアプリとのデータ連携が強化され、クラウドベースでのデータ共有や医療従事者との協業が容易になっています。

主要CGMデバイスの比較と技術的特徴

現在のCGM市場をリードしているのは、Dexcom、Abbott Libre、Medtronicといった企業が提供するデバイスです。これらの製品はそれぞれ異なる特徴を持ち、患者のニーズに応じた多様な選択肢を提供しています。

- **Dexcom Gシリーズ:** 高精度なリアルタイム血糖値データを提供し、予測アラート機能や、他のデジタルヘルスデバイスとの連携に優れています。最新モデルではセンサーの小型化とウォームアップ時間の短縮が図られています。
- **Abbott FreeStyle Libre:** リーダーやスマートフォンでセンサーをスキャンすることで血糖値を取得するフラッシュグルコースモニタリング（FGM）方式を採用しており、簡便な使用感が特徴です。一部モデルではリアルタイム表示も可能です。
- **Medtronic Guardian Connect/MiniMedシリーズ:** CGMとインスリンポンプが統合されたシステムを提供し、自動インスリン投与（AID）を実現するクローズドループシステムに注力しています。AIと機械学習を活用した血糖値予測機能も強化されています。

これらのデバイスは、それぞれ異なる装着期間（数日から数週間）や精度、コスト構造を持ち、患者のライフスタイルや治療計画に合わせて選択されます。

ワシントン州立大学、汗を利用した次世代非侵襲ウェアラブル血糖センサーを開発

公開日 2026年04月26日 Washington State University (via バイオセンサー ウィークリーレポート) アメリカ



概要

ワシントン州立大学の研究チームが、汗や涙などの非伝統的な体液からグルコースレベルを継続的に測定できる新しいウェアラブルバイオセンサーを開発しました。この技術は、従来の侵襲的な血糖検査に代わる、より便利で快適な非侵襲的モニタリング手法を提供することを目指しています。パッチ型デバイスとして皮膚に直接貼付することで、リアルタイムデータを提供し、糖尿病管理の負担を軽減し、患者の生活の質を向上させると期待されています。

非侵襲血糖モニタリングの必要性和ワシントン州立大学の取り組み

糖尿病患者にとって、血糖値の継続的なモニタリングは日々の健康管理において不可欠です。しかし、従来の指先穿刺による血糖測定は痛みや手間を伴い、患者の負担となっていました。このような背景から、非侵襲的かつ快適に血糖値を測定できるウェアラブルバイオセンサーの開発が強く求められています。ワシントン州立大学の研究チームは、この課題を解決するため、汗や涙などの非伝統的な体液からグルコースレベルを検出する革新的なウェアラブルバイオセンサーを開発しました。この研究は、患者の負担を大幅に軽減し、より広範な人々が血糖モニタリングを日常的に行えるようにすることを目指しています。

ウェアラブルバイオセンサーの技術的詳細

ワシントン州立大学が開発した新しいバイオセンサーは、高度な電気化学的検出技術を基盤としています。このデバイスは、皮膚に直接貼り付けるパッチ型として設計されており、汗腺から分泌される微量の汗を収集し、その中のグルコース濃度をリアルタイムで測定します。センサーは、酵素反応を利用してグルコースを酸化させ、その際に発生する電子を電気信号として検出します。これにより、高感度かつ選択的にグルコースレベルを評価することが可能です。特に、従来の体液ベースのセンサーで課題とされてきた、汗中の他の成分による干渉を最小限に抑えるための工夫が凝らされており、精度の高い測定を実現しています。

糖尿病管理と将来展望

このウェアラブルバイオセンサーの実用化は、糖尿病患者の血糖管理に革命をもたらす可能性があります。患者は、不快な指先穿刺を行うことなく、継続的に自分の血糖値トレンドを把握できるようになります。これにより、食事や運動、薬剤投与に関する意思決定をより適切に行えるようになり、結果として血糖コントロールの改善と合併症のリスク低減に繋がります。また、リアルタイムデータはスマートフォンアプリを通じて可視化され、患者自身や医療従事者が容易に健康状態を把握できます。将来的には、この技術が糖尿病患者だけでなく、健康意識の高い一般消費者にも普及し、予防医療の一環として活用されることが期待されています。さらなる小型化、耐久性の向上、およびデータ解析技術との連携により、その応用範囲はさらに広がるでしょう。

Dexcom、新世代CGMシステム「G7」とOTC対応グルコースバイオセンサー「Stelo」を発表

公開日 2026年04月26日 Dexcom (via バイオセンサー ウィークリーレポート) アメリカ



概要

連続血糖モニタリング（CGM）の主要企業であるDexcomは、最新の「G7 CGMシステム」と、インスリンを使用しない2型糖尿病患者向けの「Steloグルコースバイオセンサー」を導入しました。G7システムは、小型化された一体型センサーと高速なウォームアップ時間を特徴とし、ユーザーの利便性を大幅に向上させています。Steloは、処方箋不要で利用可能なOTCデバイスとして、より広範な患者層に高精度な血糖モニタリングを提供し、糖尿病管理へのアクセス性を高めます。

DexcomによるCGM技術の進化

Dexcomは、連続血糖モニタリング（CGM）技術のパイオニアとして、糖尿病患者の生活の質を向上させるための革新的な製品を開発し続けています。今回、同社が発表したのは、最新世代の「Dexcom G7 CGMシステム」と、新たに登場した「Steloグルコースバイオセンサー」です。これらの製品は、血糖モニタリングの精度、利便性、アクセス性をさらに高めることを目的としており、糖尿病管理の新たなスタンダードを確立する可能性を秘めています。特にG7システムは、以前のモデルと比較して劇的に小型化された一体型センサーとトランスミッターが特徴であり、装着時の快適さと目立たなさを追求しています。また、センサー装着からデータ表示までのウォームアップ時間が大幅に短縮され、ユーザーはより迅速に血糖トレンドを把握できるようになりました。

Steloグルコースバイオセンサー：新たな患者層へのアプローチ

Steloグルコースバイオセンサーは、Dexcomが提供する新たな戦略的な製品ラインであり、特にインスリン治療を行っていない2型糖尿病患者や、健康管理の一環として血糖値をモニタリングしたいと考える一般ユーザーを対象としています。Steloは、米国で初めて処方箋なしで購入できる（OTC: Over-the-Counter）CGMデバイスの一つとして注目されています。このアクセシビリティの向上は、より多くの人々が自身の血糖値に関するリアルタイムの洞察を得られることを意味し、食事、運動、ライフスタイルの選択が血糖値に与える影響を理解する上で強力なツールとなります。高精度なグルコース測定値を提供することで、ユーザーは自身の健康状態についてより情報に基づいた意思決定を行えるようになります。

糖尿病ケアへの影響と将来展望

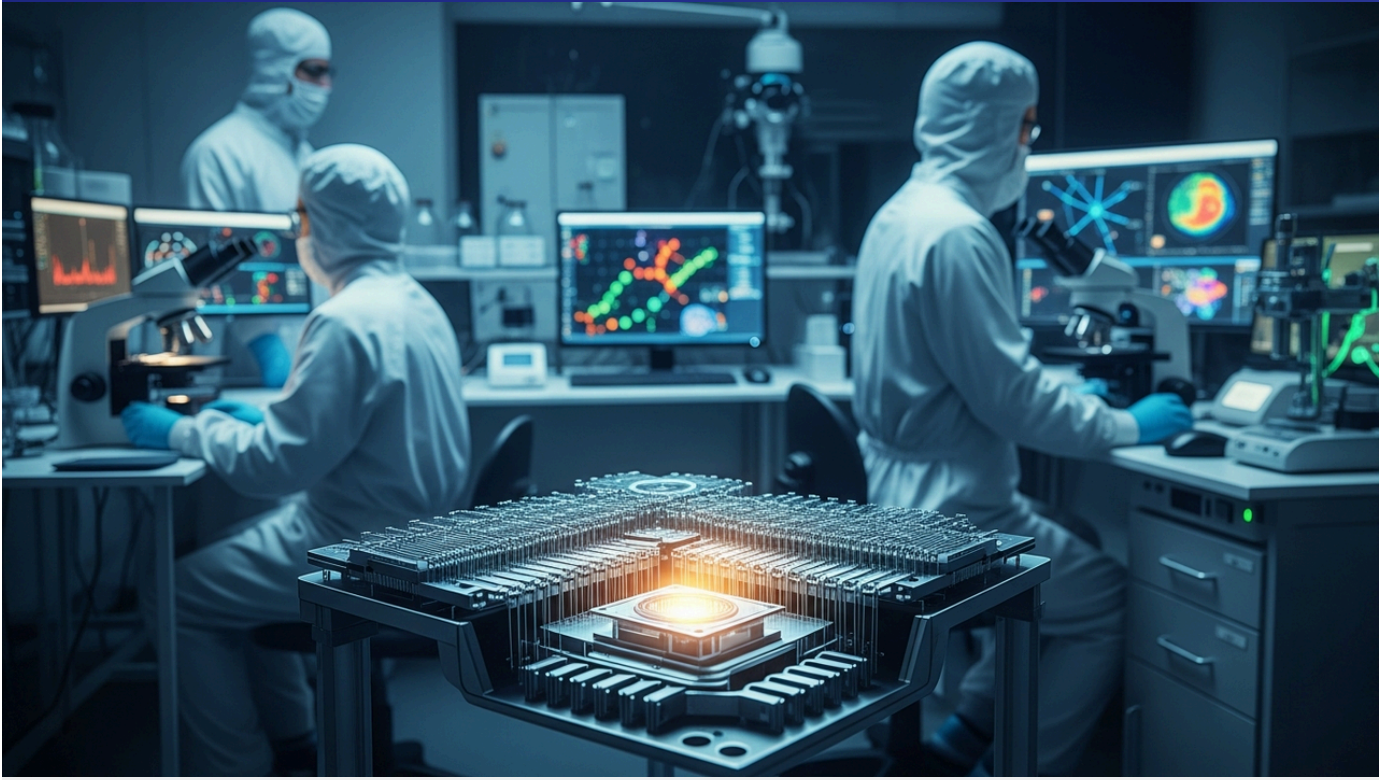
DexcomのG7とSteloの導入は、糖尿病ケアの未来に大きな影響を与えるでしょう。G7システムは、インスリン依存型糖尿病患者や、より積極的な血糖管理を必要とする患者に対して、優れたパフォーマンスと利便性を提供します。一方、Steloは、これまでCGMを利用する機会が少なかった患者層に、手軽で効果的なモニタリング手段を提供することで、糖尿病の早期介入や予防、さらには一般の健康管理におけるCGMの普及を加速させます。これらの技術革新は、血糖値のリアルタイムデータに基づいて患者が自身の健康状態を積極的に管理することを促し、長期的な合併症のリスク低減に貢献します。将来的には、AIを活用したパーソナライズされた食事指導や運動提案など、データに基づいた包括的な健康ソリューションがさらに進化することが期待されます。

元記事: <https://troy-technical.jp/%E3%83%90%E3%82%A4%E3%82%AA%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%82%B5%E3%83%BC-%E3%82%A6%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%AC%E3%83%9D%E3%2026%E5%B9%B4%E6%9C%8825%E6%97%A5%E5%8F%B7/>

収集日: 2026年05月02日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

膵臓がんの早期診断を可能にする電気化学バイオセンサー技術の開発

公開日 2026年04月26日 Vertex AI Search (via バイオセンサー ウィークリーレポート) 日本



概要

膵臓がんの早期発見を可能にする新しい電気化学バイオセンサーが開発されました。このセンサーは、生体サンプル中の特定の膵臓がん関連バイオマーカーを高感度かつ選択的に検出する能力を持ちます。早期診断が極めて困難である膵臓がんの予後改善に不可欠な技術として期待されており、既存の診断法と比較して迅速な結果を提供できる点が大きな利点です。この技術は、ポイントオブケア検査への応用も視野に入れています。

膵臓がん早期診断の喫緊性とバイオセンサーへの期待

膵臓がんは、その症状が非特異的であるため、多くの場合進行がんで発見され、予後が極めて不良な疾患として知られています。そのため、早期発見技術の開発は、患者の生存率向上に直結する医療上の喫緊の課題です。この状況に対し、新しい電気化学バイオセンサーが膵臓がんの早期診断を可能にする画期的なツールとして開発されました。このセンサーは、血液などの生体サンプル中に微量に存在する膵臓がん特有のバイオマーカーを、極めて高い感度と選択性で検出することを目指しています。従来の画像診断や腫瘍マーカー検査では困難であった初期段階でのがんの兆候を捉えることで、治療介入のタイミングを早め、患者の治療成績を大きく改善する可能性を秘めています。

電気化学バイオセンサーの検出原理と利点

開発された電気化学バイオセンサーは、ターゲットとなるバイオマーカーがセンサー表面に結合した際に生じる電気化学的変化（電流、電位、インピーダンスなど）を検出原理としています。センサー表面には、特定のバイオマーカーに特異的に結合する抗体や核酸プローブなどの認識分子が固定されており、マーカーの結合が電気信号の変化として読み取られます。この技術の主な利点は以下の通りです。

- **高感度・高選択性:** 微量なバイオマーカーでも確実に検出でき、他の生体分子による干渉を最小限に抑えます。
- **迅速性:** サンプルから短時間で分析結果を得られるため、緊急性の高い診断状況にも対応可能です。
- **小型化・コスト効率:** デバイスを小型化しやすく、製造コストを抑えることができるため、普及しやすい特徴があります。

これらの特性により、医療機関のリソースが限られた環境でも利用可能な、ポイントオブケア（POCT）診断デバイスとしての応用が期待されています。

臨床応用と今後の展望

この新しい電気化学バイオセンサーが臨床現場に導入されれば、膵臓がんのスクリーニング検査や、治療効果のモニタリングに革命をもたらすでしょう。例えば、定期的な健康診断の一部としてこのバイオセンサー検査を導入することで、リスクの高い集団の中から早期がん患者を効率的に特定することが可能になります。また、治療中の患者においては、バイオマーカーの変化をリアルタイムで追跡し、治療法の有効性を評価する指標としても活用できます。今後の研究開発では、複数のバイオマーカーを同時に検出できるマルチプレックス化や、AI（人工知能）によるデータ解析との融合により、さらに診断精度と予測能力を高めることが期待されています。この技術が広く普及することで、膵臓がん患者の予後が劇的に改善される未来が現実となるでしょう。

元記事: <https://troy-technical.jp/%E3%83%90%E3%82%A4%E3%82%AA%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%82%B5%E3%83%BC-%E3%82%A6%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%AC%E3%83%9D%E3%2026%E5%B9%B4%E6%9C%8825%E6%97%A5%E5%8F%B7/>

収集日: 2026年05月02日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

汗のpHを連続モニタリングするウェアラブルセンサーの技術革新

公開日 2026年04月26日 Vertex AI Search (via バイオセンサー ウィークリーレポート) 日本



概要

汗のpH値を継続的にモニタリングできるウェアラブルセンサーの技術が進展しています。この非侵襲的なデバイスは、身体の生理学的変化、水分補給状態、さらにはストレスレベルや特定の健康状態を示す重要な指標を提供します。フレキシブル素材と高感度な電気化学検出技術を組み合わせたパッチ型デバイスが開発され、アスリートのパフォーマンス管理やパーソナライズされた健康管理への応用が期待されています。

ウェアラブルセンサーによる汗pHモニタリングの重要性

近年、健康意識の高まりとともに、個人の生理学的状態をリアルタイムでモニタリングできるウェアラブルデバイスへの注目が高まっています。特に、汗のpH値は、体内の代謝状態、水分補給レベル、電解質バランス、さらには特定の皮膚疾患や腎臓機能の指標となることが知られています。このため、汗のpHを非侵襲的かつ継続的に測定できるウェアラブルセンサーの開発は、スポーツ科学、予防医療、そして個別化された健康管理において極めて重要な意味を持ちます。従来の検査では、特定の時点のデータしか得られませんでした。ウェアラブルセンサーは日常的な活動中の変動を捉えることが可能です。

技術的進歩とデバイスの設計

汗のpHを連続的にモニタリングするウェアラブルセンサーの最新の進歩は、主にフレキシブルな素材と高感度な電気化学的検出技術の融合によって実現されています。これらのセンサーは、皮膚に直接貼り付けるパッチ型や、衣類に組み込むタイプとして設計されています。検出部には、pHの変化に応答して電位や電流が変化するイオン選択性膜や金属酸化物電極などが用いられます。重要な技術的課題は、汗の組成変動、皮膚との密着性、長期間の使用における安定性、そして小型化と低消費電力化です。最新の研究では、ナノ材料の導入やマイクロ流路技術との組み合わせにより、これらの課題が克服されつつあり、より正確で信頼性の高いデータを提供できるようになっています。収集されたデータは、Bluetoothなどを介してスマートフォンアプリにリアルタイムで転送され、ユーザーが視覚的に自身の状態を把握できるようになっています。

応用分野と将来展望

汗pHモニタリングウェアラブルセンサーの応用範囲は非常に広範です。スポーツ分野では、アスリートの水分補給状態や疲労度をリアルタイムで評価し、トレーニングの最適化やパフォーマンス向上に貢献します。医療分野においては、特定の疾患（例：嚢胞性線維症や腎疾患）のスクリーニングや進行モニタリングに利用される可能性があります。また、一般の健康管理においては、ストレスレベルの評価や睡眠の質の改善、さらには病気の早期兆候の検出にも役立つと期待されています。将来的には、複数の生体パラメーター（例：グルコース、乳酸、電解質など）を同時に測定できるマルチセンサーシステムとして進化し、AI（人工知能）による高度なデータ解析と組み合わせることで、よりパーソナライズされたヘルスケアソリューションの中核を担うでしょう。これにより、個々人の健康状態に合わせたきめ細やかなアドバイス提供が可能となり、予防医療のさらなる普及が期待されます。

元記事: <https://troy-technical.jp/%E3%83%90%E3%82%A4%E3%82%AA%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%82%B5%E3%83%BC-%E3%82%A6%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%AC%E3%83%9D%E3%2026%E5%B9%B4%E6%9C%8825%E6%97%A5%E5%8F%B7/>

血糖モニタリング装置市場 グローバル調査レポート 2026-2033

公開日 2026年04月28日 Pando 日本



概要

Pandoが公開したこの市場調査レポートは、2026年から2033年までの血糖モニタリング装置市場に焦点を当てています。糖尿病有病率の増加と継続的な技術革新が市場の主な推進要因であり、特に連続血糖モニタリング（CGM）デバイスが重要な役割を果たすと指摘されています。より小型で正確、ユーザーフレンドリーなデバイスへの需要が高まっており、この市場は今後も拡大が予測されます。

詳細

本記事はPandoが発行した市場調査レポートの概要紹介です。

レポート概要

本レポートは、2026年から2033年までの期間における血糖モニタリング装置のグローバル市場を対象とした詳細な産業分析と技術革新に焦点を当てています。糖尿病の有病率が世界的に上昇している現状と、これに対応する診断・管理技術の進化が主な分析テーマです。特に、リアルタイムで血糖値を測定し、スマートフォンや他のデバイスにデータを送信できる連続血糖モニタリング（CGM）デバイスの重要性が強調されています。

主要な調査結果

市場の成長は、糖尿病患者数の増加だけでなく、デバイスの小型化、精度向上、使いやすさの改善といった継続的な技術進歩によって推進されています。レポートは、自己管理を支援する新しいアプリケーションの開発が、これらの技術の採用をさらに加速させていると指摘しています。市場は今後も、より高性能でユーザーフレンドリーな血糖モニタリングソリューションの提供に注力することで、持続的な拡大が期待されています。地域別、製品タイプ別の詳細な分析も行われています。

発行会社について

Pandoは、様々な業界の市場動向、技術革新、競合分析に特化した情報を提供するプラットフォームです。詳細な市場調査レポートを通じて、企業が戦略的な意思決定を行うための貴重なインサイトを提供しています。テクノロジー、ヘルスケア、消費財など多岐にわたる分野で、信頼性の高いデータと分析を提供することに定評があります。

元記事: <https://pando.life/article/4142203>

バイオセンサーシステム市場 グローバル調査レポート 2026-2033

公開日 2026年04月28日 inkrich 日本



概要

inkrichが報じるこの市場調査レポートは、バイオセンサーシステム市場が2026年から2033年までの間に年平均成長率（CAGR）7.3%で成長すると予測しています。医療、食品安全、環境モニタリングなど多分野での応用が市場拡大を牽引。技術革新と消費者の健康志向が個別化医療やウェアラブルデバイスの普及を促進し、新たな市場機会を創出すると分析されています。

詳細

本記事はinkrichが報じる市場調査レポートの概要紹介です。

レポート概要

本レポートは、2026年から2033年までの期間におけるバイオセンサーシステムの世界市場に焦点を当てた詳細な分析を提供しています。医療診断、食品安全、環境モニタリングといった多様な分野でバイオセンサーが果たす重要な役割を概説し、市場成長の主要な推進要因を特定しています。特に、迅速かつ正確なデータ提供が求められる現代において、バイオセンサーのニーズが高まっている状況を分析しています。

主要な調査結果

業界専門家は、バイオセンサーシステム市場が2026年から2033年の間に年平均成長率（CAGR）7.3%で堅調に成長すると予測しています。この成長は、新たな技術革新と消費者の健康志向の高まりによって後押しされており、個別化医療やウェアラブルデバイスの普及が市場拡大の重要なトレンドとして挙げられます。レポートでは、熱、電気化学、光学バイオセンサーを含むタイプ別のセグメント分析も詳述されており、それぞれの技術的特徴、主要プレイヤー、および成長要因が概説されています。これらの要因が相まって、未開拓の市場機会を生み出し、ビジネスの成長を促進すると考えられます。

発行会社について

inkrichは、広範なビジネスおよび市場情報を提供するオンラインプラットフォームです。専門家による分析記事や市場調査レポートの概要を通じて、読者に最新の業界トレンドやビジネスチャンスに関する情報を提供しています。特にテクノロジー、金融、ヘルスケアといった成長分野に強みを持っています。

元記事: <https://penelopehartford.inkrich.com/posts/111/>

ラボオンチップデバイス市場 グローバル戦略的予測 2026-2033

公開日 2026年04月27日 Pando グローバル



概要

Pandoが発表したこの戦略的予測レポートは、2026年から2033年にかけてのラボオンチップデバイス市場の急速な成長を予測しています。これらのデバイスは、病気の迅速診断や環境モニタリングなど、多様な分野で不可欠な役割を担うと分析されています。技術革新と高精度で低コストなソリューションへの高まる需要が市場を牽引し、特に自己再生医療や個別化医療の進展が成長ドライバーとなるでしょう。

詳細

本記事はPandoが発行した市場調査レポートの概要紹介です。

レポート概要

本レポートは、2026年から2033年までの期間におけるラボオンチップデバイスのグローバル市場の成長、傾向、および規模に関する戦略的予測を提供しています。これらの微細な統合デバイスが、医療診断、環境モニタリング、および生命科学研究といった多岐にわたる分野でいかに重要な役割を果たすかを分析しています。技術革新と、より高精度で低コストな分析ソリューションへの需要が市場拡大の主要因として挙げられています。

主要な調査結果

ラボオンチップデバイス市場は、調査期間中に急速な成長を遂げると予測されています。市場を牽引する主要なセグメントとしては、マイクロアレイ、マイクロフルイディクス、および組織バイオチップが挙げられます。それぞれの技術は、特定のアプリケーションにおいて強みを発揮し、市場全体の拡大に貢献しています。特に、自己再生医療やパーソナライズドメディスンの需要増加が、ラボオンチップデバイスの利用を加速させています。これにより、病気の迅速な診断、個別化された治療法の開発、そしてより効率的な創薬プロセスの実現が期待されています。

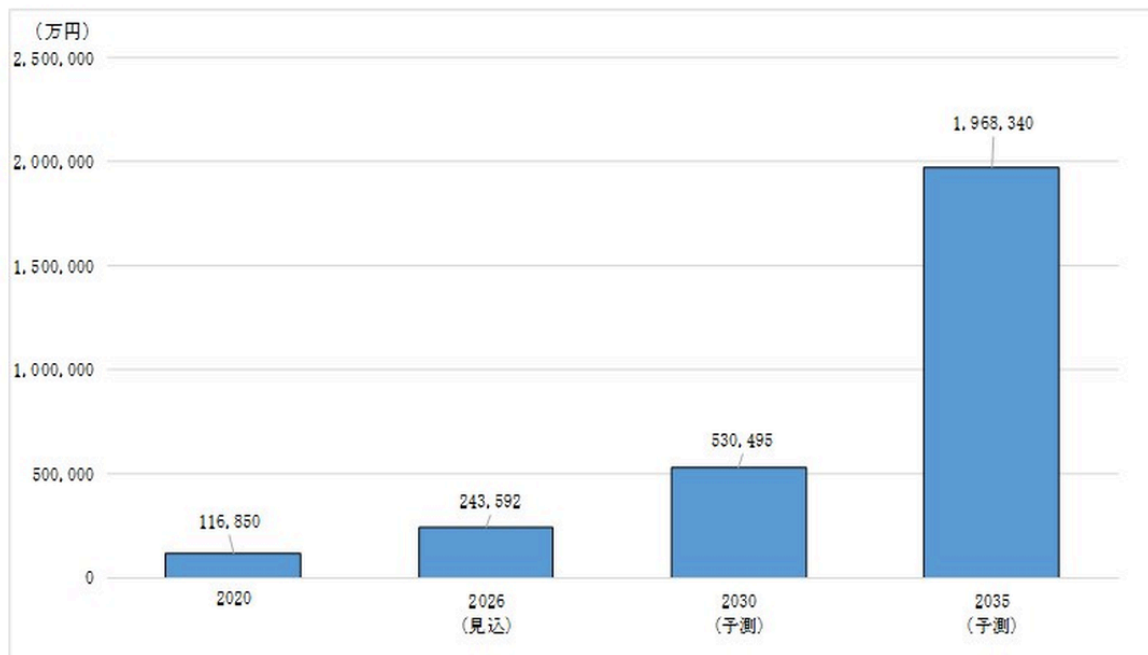
発行会社について

Pandoは、市場調査レポート、技術分析、産業予測に特化した情報プラットフォームです。最新の市場トレンドとデータに基づいた深い洞察を提供し、企業の意思決定を支援しています。特にテクノロジーとヘルスケア分野における包括的なレポートで知られており、信頼性の高い情報源として評価されています。

元記事: <https://pando.life/article/4136131>

におけるデジタル化：におけるセンシング世界市場の展望 2026

公開日 2026年04月30日 矢野経済研究所 日本



注1. メーカー出荷額ベース

注2. 2026年見込値、2030年以降予測値

各種公開情報をもとに矢野経済研究所作成

概要

矢野経済研究所が実施したこの調査レポートは、2026年におけるにおけるセンシングの世界市場を詳細に分析しています。同技術は、環境モニタリングや医療診断分野での応用が進展しており、ニッチな領域から社会実装へと移行していると指摘されています。高感度な電子センサーアレイとパターン認識システムの組み合わせが、極低濃度における物質検知を可能にし、市場拡大を後押ししています。

詳細

本記事は矢野経済研究所が発行した市場調査レポートの概要紹介です。

レポート概要

矢野経済研究所が2026年に実施したこの調査レポートは、**においセンシング**の世界市場に関する包括的な分析を提供しています。本レポートでは、**においセンシング**技術がニッチな研究領域から、多様な産業分野への実用化へと進展している現状に焦点を当てています。特に、環境モニタリング、食品安全、そして医療診断における応用が詳細に検討されており、市場の主要な推進要因と課題を特定しています。

主要な調査結果

においセンシング技術は、水質汚染物質、大気汚染物質、食品の鮮度、さらには呼気中の疾患関連バイオマーカーといった、極低濃度の**におい**物質を高感度で検知する能力を持つとされています。これは、高感度な電子センサーアレイと、複雑な**におい**パターンを識別するための先進的なパターン認識システム（例：AIや機械学習アルゴリズム）の組み合わせによって実現されます。レポートは、将来的には単一の**におい**センサーだけでなく、複数のセンサーを統合したシステム（電子鼻など）の構築が市場の拡大と、より多様な顧客ニーズへの対応を可能にすると予測しています。これにより、新しい製品開発やサービスの創出が期待されます。

発行会社について

矢野経済研究所は、1958年創業の日本の独立系シンクタンクであり、幅広い産業分野における市場調査、コンサルティング、情報提供サービスを行っています。特に、精密機械、電子部品、医療・ヘルスケア、環境・エネルギーなどの先端技術分野において、深い専門知識と実績を持ちます。彼らのレポートは、日本国内およびアジア市場の動向を詳細に分析し、企業の戦略立案に貢献することで定評があります。

元記事: https://www.yano.co.jp/press-release/show/press_id/4107